

スーパーマーケット景気動向調査

2021年4月調査結果（3月実績）
（2021年4月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DI 現状、見通し判断は小幅に悪化

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から-2.4の37.9、見通し判断は前月から-2.0の33.7となり、共に前月から小幅な悪化となった。

経営動向調査は、売上高DI、収益DI共に二桁マイナス値となった。引き続き巣ごもり傾向による堅調な食品需要に大きな変化はみられないが、前年の、食品備蓄行動による特需が起きた保存性の高い食品や、マスクなどの衛生用品、紙製品の反動が大きかったことが影響した。客単価DIは反動でプラス幅を縮小、来店頻度を抑える行動の継続により来客数DIは低下している。

カテゴリー動向調査では、前年の休校要請により給食の代替として需要が高まった日配カテゴリーや、保存性の高い畜産、一般食品、非食品カテゴリーで前年の反動を大きく受け、前年プラス幅が大きかったカテゴリーほど下落幅が大きくなった。一方で、前年不振であった惣菜DIはわずかにプラスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、景気判断DIや消費者購買意欲DIの悪化傾向が継続しており、現状判断DIは30台まで悪化している。（長期傾向についてはp11参照）

感染拡大から1年が経過し、家庭での食事需要や調理志向は堅調に推移しているが、前年の反動も大きく、また地域経済への影響も長引くことが予想されることから、景気マインドは弱含みとなった。前年同月比では変化の大きい状況が続くとみられるが、足元の消費者ニーズの細かな変化の把握や対応に気を配り、すっきりしない日々を過ごす人々の食生活を豊かに彩る提案が求められるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：37.9 (-2.4)
前月：40.3

消費者購買意欲DI
当月：41.0 (-1.7)
前月：42.7

周辺地域 競合状況DI
当月：42.4 (-1.2)
前月：43.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：40.7 (-1.9)
前月：42.6

見通し判断

景気判断DI
当月：33.7 (-2.0)
前月：35.7

消費者購買意欲DI
当月：37.9 (-1.6)
前月：39.5

周辺地域 競合状況DI
当月：41.2 (-0.2)
前月：41.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：39.1 (-0.1)
前月：39.2

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-21.6 (-13.2)
前月：-8.4

客単価DI
当月：4.1 (-14.2)
前月：18.3

来客数DI
当月：-24.3 (+1.9)
前月：-26.2

収益DI
当月：-18.1 (-14.7)
前月：-3.4

販売価格DI
当月：-0.1 (-4.1)
前月：4.0

生鮮品仕入原価DI
当月：1.4 (+1.3)
前月：0.1

食品仕入原価DI
当月：-2.1 (-1.4)
前月：-0.7

カテゴリー動向

青果DI
当月：-12.3 (-20.2)
前月：7.9

水産DI
当月：-7.9 (-10.3)
前月：2.4

畜産DI
当月：-21.8 (-19.3)
前月：-2.5

惣菜DI
当月：5.6 (+8.7)
前月：-3.1

日配DI
当月：-20.0 (-12.2)
前月：-7.8

一般食品DI
当月：-29.7 (-19.6)
前月：-10.1

非食品DI
当月：-25.0 (-1.4)
前月：-23.6

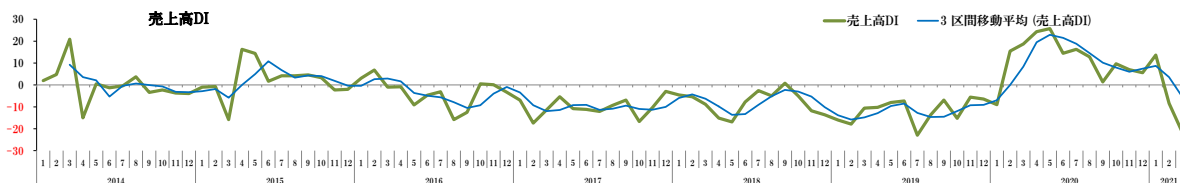
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

売上好調も前年比で大幅マイナス

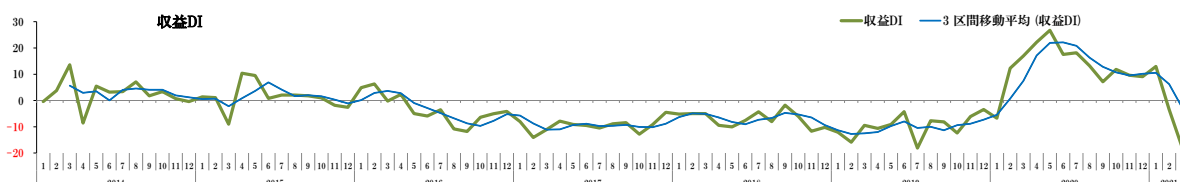
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	13.6	33.7	27.7	22.8	2.2	-8.4
売上高 (当月)	27.8	43.8	17.2	9.5	1.8	-21.6



2. 収益DI

コスト上昇傾向で大幅マイナス

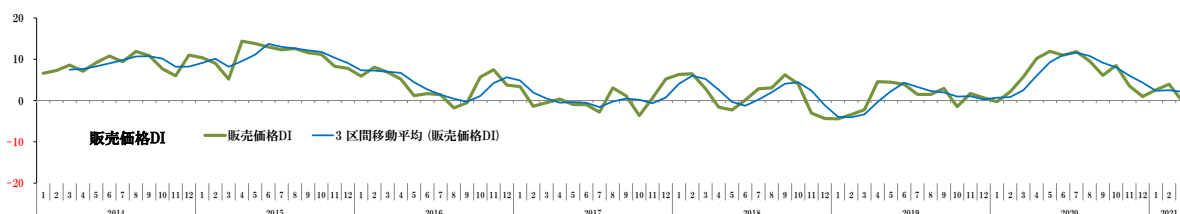
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	10.7	28.7	28.7	27.5	4.5	-3.4
収益 (当月)	23.9	38.7	24.5	11.7	1.2	-18.1



3. 販売価格DI

やや低下するも前年水準は維持

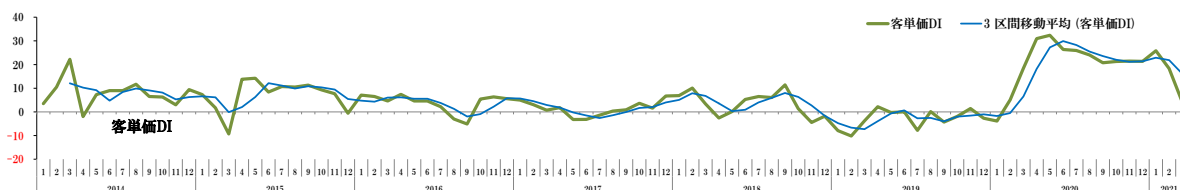
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	10.4	63.9	23.0	2.2	4.0
販売価格 (当月)	0.6	16.7	65.5	17.3	0.0	-0.1



4. 客単価DI

巣ごもり需要一巡もプラスを維持

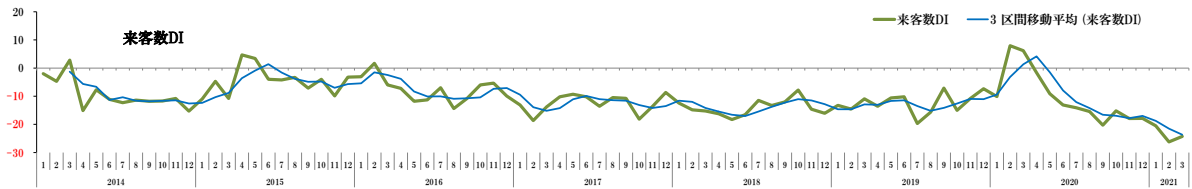
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.6	9.2	20.7	51.1	17.4	18.3
客単価 (当月)	1.8	20.1	39.1	37.9	1.2	4.1



5. 来客数 DI

来店頻度抑制で二桁マイナス続く

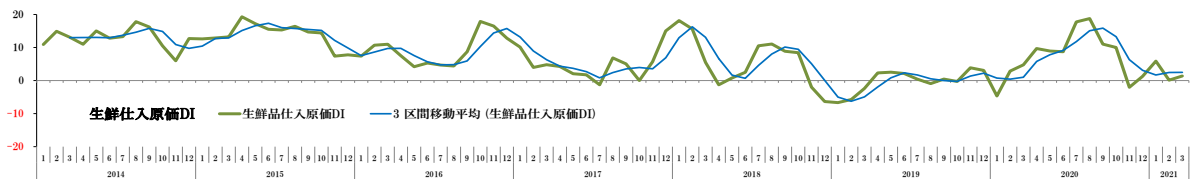
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	33.7	44.0	16.8	4.3	1.1	-26.2
来客数 (当月)	27.4	48.8	18.5	4.2	1.2	-24.3



6. 生鮮仕入原価 DI

ほぼ前年同期水準で推移

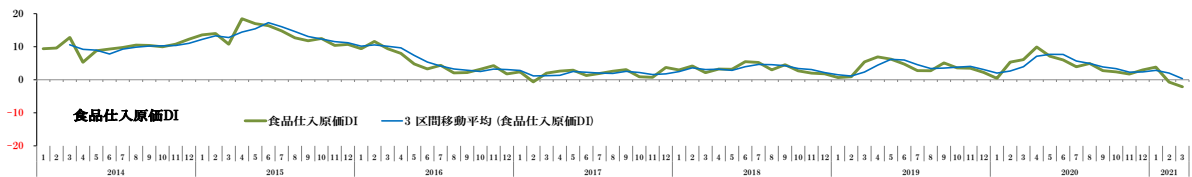
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	4.5	10.1	67.6	16.2	1.7	0.1
生鮮仕入原価 (当月)	1.9	11.7	66.7	18.5	1.2	1.4



7. 食品仕入原価 DI

小幅に下落しマイナス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	5.0	8.3	72.8	12.2	1.7	-0.7
食品仕入原価 (当月)	4.8	10.8	72.3	12.0	0.0	-2.1

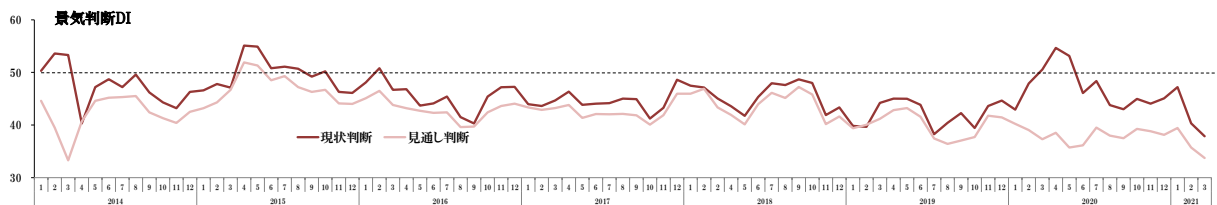


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

先行き不透明で現状、見通し共に悪化

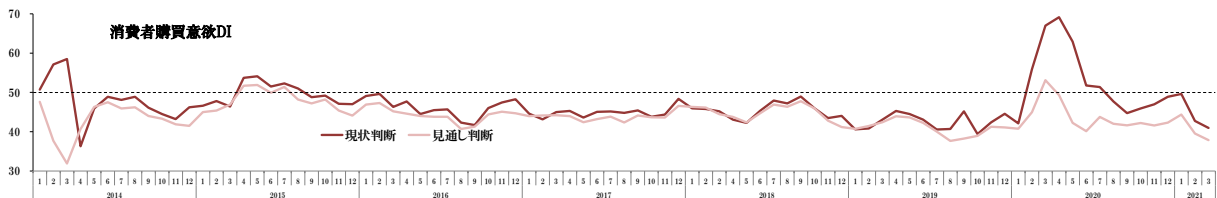
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	3.2	36.6	55.9	4.3	0.0	40.3
【現状】景気判断 (当月)	5.9	41.4	48.5	3.6	0.6	37.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	7.1	46.7	42.4	3.8	0.0	35.7
【見通し】景気判断 (当月)	11.8	43.8	42.0	2.4	0.0	33.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し共に小幅に悪化

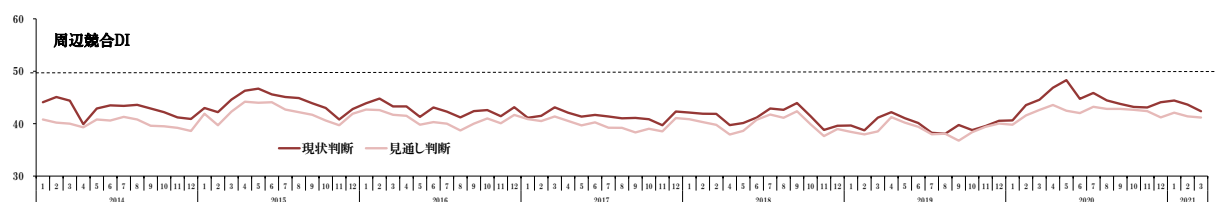
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	31.7	64.5	2.7	0.5	42.7
【現状】購買意欲 (当月)	1.8	37.3	56.2	4.7	0.0	41.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.6	41.8	53.3	3.3	0.0	39.5
【見通し】購買意欲 (当月)	4.7	42.0	50.3	3.0	0.0	37.9



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも横ばいでの推移

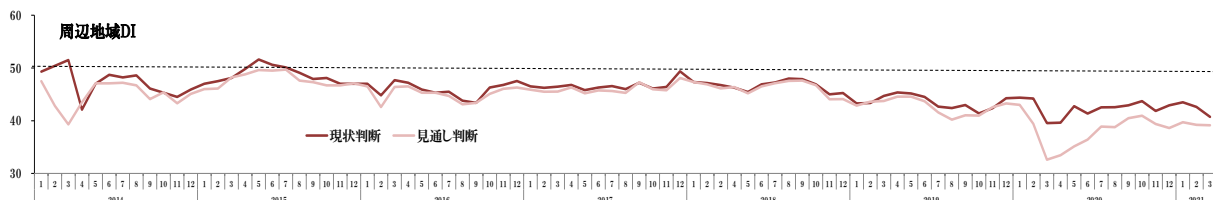
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.2	21.6	75.7	0.5	0.0	43.6
【現状】競合状況 (当月)	2.4	25.7	71.9	0.0	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.7	29.5	67.2	0.5	0.0	41.4
【見通し】競合状況 (当月)	4.8	26.9	67.1	1.2	0.0	41.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に悪化

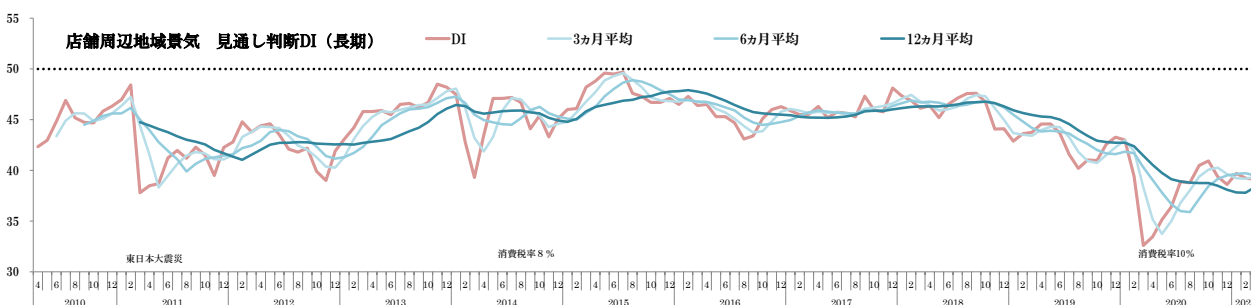
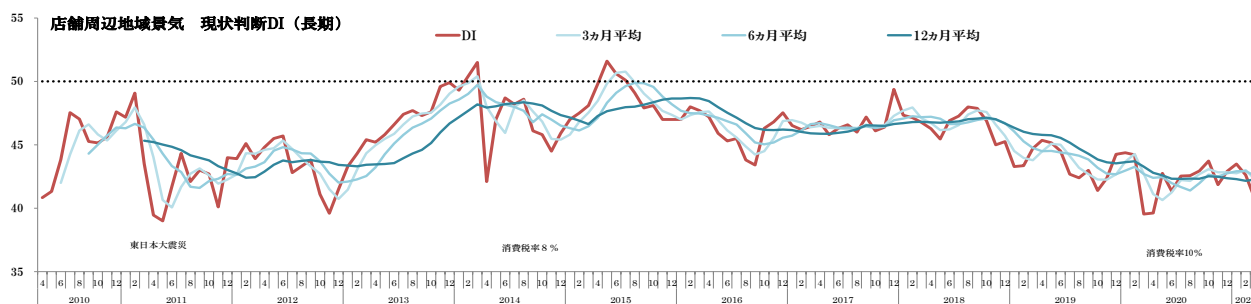
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	27.3	71.6	0.0	0.0	42.6
【現状】地域景気 (当月)	2.4	34.7	60.5	2.4	0.0	40.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.6	42.5	56.4	0.6	0.0	39.2
【見通し】地域景気 (当月)	3.0	38.7	57.1	1.2	0.0	39.1



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

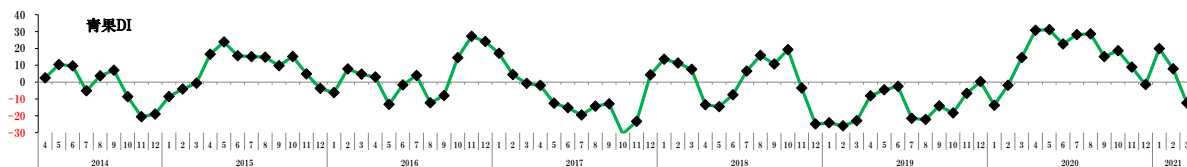
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月以降は悪化が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-12.3（不調）

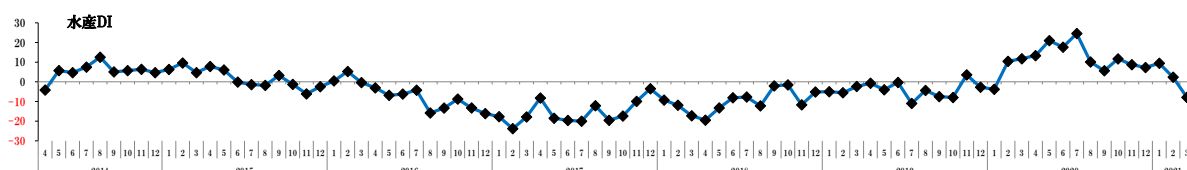
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.9	20.6	27.8	35.6	12.2	7.9
青果（当月）	17.7	34.1	29.9	16.5	1.8	-12.3



家庭内食事需要が続いているものの、前年からの反動を受けた。家庭料理ニーズの高いじゃがいもやニンジンなどの相場は上昇したことで土物類が好調となった。前年と同様に気温が高い日が多くトマトや洋菜などのサラダ商材の動きがよかったが、相場安の影響を受け伸び悩んだ店舗もみられた。果物は柑橘類やバナナが牽引して好調、カットフルーツの動きもよかったとのコメントもみられた。

2. 水産DI：-7.9（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.3	23.0	32.6	27.0	10.1	2.4
水産（当月）	11.7	32.1	36.4	15.4	4.3	-7.9



家庭内食事需要が持続しており、簡便調理商品や保存が利く冷凍加工品の動きはよいが、前年との比較ではマイナスとなった。前年敬遠された生魚や貝類は回復している。刺身類は前年不振の反動に加え、ひな祭り関連で動きがよく好調。農林水産省の緊急対策事業による生産者支援を追い風にマグロや鯛、ウナギやサーモンなどが好調とのコメントも。「家飲み」増加で、魚卵や塩干などが引き続き好調。

3. 畜産DI：-21.8（かなり不調）

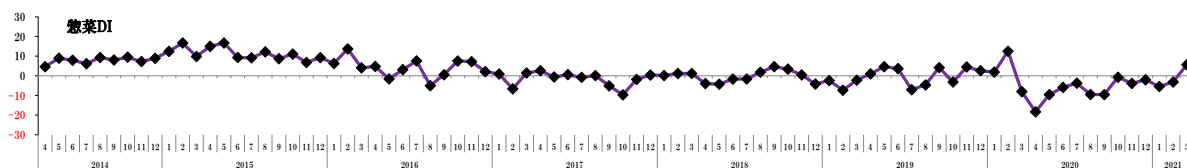
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	12.2	26.1	25.0	32.8	3.9	-2.5
畜産（当月）	28.7	40.9	20.7	8.5	1.2	-21.8



自宅調理傾向は継続しているものの、前年に保存性の高い畜産品の需要が急増した反動を受けた。豚肉や鶏肉は国産相場が上昇しており、輸入品を拡販する動きもみられたが、特に挽肉で前年との反動が大きかった。牛肉は味付け肉に反動が大きいが、和牛を安価に販売できた店舗では好調となった。ハムなど加工肉は前年からの反動減が顕著にみられる。

4. 惣菜DI：5.6（やや好調）

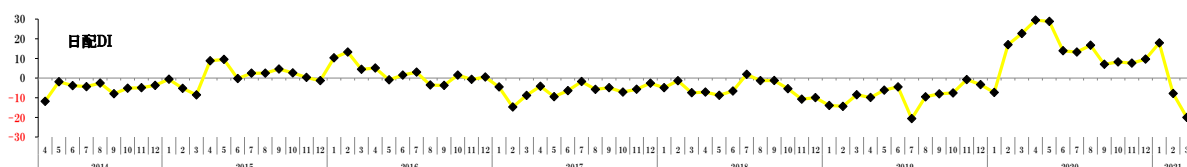
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	8.0	34.7	23.9	29.0	4.5	-3.1
惣菜（当月）	4.3	24.4	25.6	36.0	9.8	5.6



前年は内食の急伸や通勤客の減少、バラ売り中止の影響で伸び悩んだが、中食ニーズには回復傾向もみられており、サラダ関連や自宅で調理しにくい商品群、寿司類や揚げ物、てんぷらなどが好調に推移した。「家飲み」向けの焼鳥やつまみ類も引き続き堅調。米飯類は、来客数動向により好不調まちまちとなった。イベントや花見は自粛が続き、オードブルなどは依然として不振。

5. 日配DI：-20.0（不調）

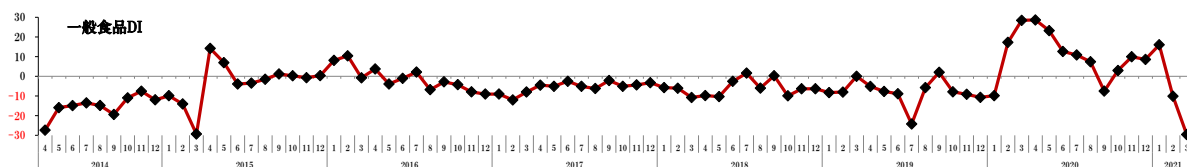
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.6	36.9	28.5	21.2	2.8	-7.8
日配（当月）	22.9	44.6	23.5	7.8	1.2	-20.0



家庭内食事需要と保存性を背景に冷凍食品などの動きは引き続き良いが、前年の休校要請による給食の代替需要が高まったパン類、麺類、牛乳やチーズ、キムチや漬物などに大きな反動がみられた。気温の高い日が多くホット商材は不振。アイスや飲料は好調となった。前年特需となった納豆には大きな反動減がみられた。高単価の食品やデザートは引き続き動きがよかった。

6. 一般食品：-29.7（かなり不調）

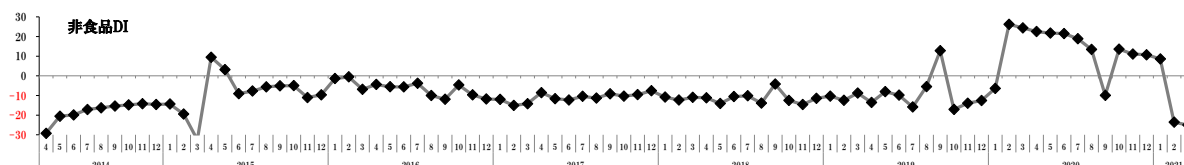
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	12.2	40.0	27.2	17.2	3.3	-10.1
一般食品（当月）	40.4	42.8	12.7	3.6	0.6	-29.7



前年の食品備蓄行動により特需となった保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、シリアル、カレー・レトルト類、缶詰、米、ミネラルウォーターなど）、簡便商材では大きな反動減がみられた。一方で家庭内調理需要の継続により、調味料、粉物や手作り用食材などは引き続き好調となっている。飲食店の時短営業の影響もあり「家飲み」傾向が顕著となっており、酒類や珍味などのつまみ類が引き続き好調。節約志向に加え競合店舗との価格競争により売価下落を指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-25.0（かなり不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	39.1	28.2	22.4	8.6	1.7	-23.6
非食品（当月）	40.9	29.9	18.9	9.1	1.2	-25.0



前年にハンドソープや除菌関連などの衛生用品で特需となった反動を受け、大幅減となった。一方でマスクなどが品薄により十分に販売できなかった店舗では引き続き好調となった。デマにより買いだめが発生したティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品類についても反動減が大きかった。家庭用洗剤や調理補助用品は引き続き堅調な販売が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2021年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 前年同月からの反動
2. 気温が高い
3. 日曜日が一日少ない

（参考）2020年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 新型コロナウイルスによる食品需要の高まり
2. 小中高一斉休校による影響
3. イベント・行楽中止の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 169社
 2月実績確報版 186社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp